書と絵画との熱き時代・1945〜1969

敗戦後の書においては、他の日本画・俳句などの伝統的な表現ジャンルと同様、戦前からの前衛的試作の胎動を受け継ぎつつ、根底的な見直しが迫られました。

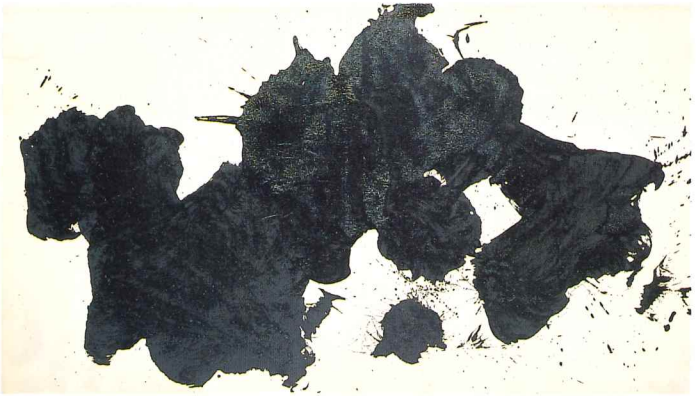
それは明治期において、書の芸術性について強く問い掛けられて以来の、近代日本における第二の大きな反省期とも言えましょう。その中で書の作家の中には、時には文字を書くという文字性自体からも逸脱しながら、実際の制作を通じて、あらためて書の本来的な書性が問い直されたのです。

それは当時のアンフォルメル絵画をはじめとした同時代の欧米の美術界の潮流に呼応した動きとも言えますが、偶然のように書と近しいストローク性の強いその新しい絵画に、一部の書家は同じ造形芸術としての共通点を見出し啓発されました。また、逆に西洋の作家側でも、行為性・自由な線描などの点で東洋の書芸術への希求の動きも同時に存在していたのです。

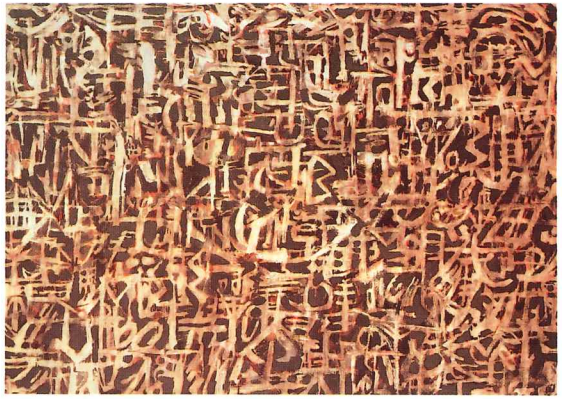
このような交差した両洋のまなざしのなかで、1960年代まではカリグラフィと言うものが共通の広い関心の対象として美術界に渦巻いていたと言えましょう。それは単に書の世界にとどまらず、当時の洋画・日本画等を含めジャンルを越えて、同一の地平上に交流のあった活発な動きがあったことをも意味します。

ただしその中でこの記号でありながら、同時に生々しい有機体でもある書というものを扱う彼等書家の側での主義・主張は様々でした。絵画性へと接近し純粋に線と空間の美を追求する試み、しかしそれでもあくまでも文字という場で精神性と一体となって書くべきとする立場。その書と絵画の間において、次第に個々の作家は書の独自性を見出して行こうとしたわけです。

しかしながら、かような書という伝統的なメディアの中での問い直しの試みは活性度を失い、絵画等との交流もなくなり、強い伝統の磁力に引かれるように、次第にかつての書道としての閉鎖的な場へと終息していったことも否めません。このように日本の近代美術において極めてユニークなものであったこの1940〜60年代の書と絵画の動向は様々の問題を投げつけていながらも、美術史の一シーンとしてはいまだ等閑に付せられているのが現状です。今回の展観においては、1940〜60年代を中心としたいわゆる墨象等の書の動向を、周辺の国内外の絵画作品を交えつつ、その代表作120余点を展示することで、この絵画と書とのはざまの中での創造性とその意味を今一度検証してみることで、われわれの近代を、そして今後の書について考えようとする初の試みです。



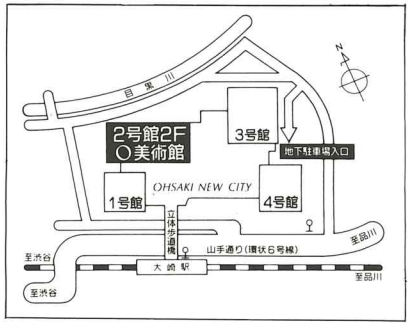
森田子龍《灼熱》1956年（国立国際美術館蔵）



アレシンスキー《夜》1955年（大原美術館蔵）

吉原治良《作品》1957年（兵庫県立近代美術館蔵）

○美術館 ご案内



◉交通
山手線大崎駅（東口）下車徒歩1分
東急バス（大井町駅↔渋谷駅）大崎駅下車徒歩1分

◉駐車場
美術館専用駐車場はございません。
お車でご来館の場合、「大崎ニューシティ」地下2Fの駐車場（有料）をご利用下さい。

（財）品川文化振興事業団

○美術館

オー美術館：山手線大崎駅東口下車徒歩1分
東京都品川区大崎1-6-2大崎ニューシティー2号館　TEL.3495-4040

上田　桑鳩
大沢　雅休
小川　瓦木
稲村　雲洞
大沢　竹胎
武士　桑風
中島　邑水
表　立雲
岡部　蒼風
池田　水城
森田　子龍
井上　有一
江口　草玄
辻　太
篠田　昭二
手島　右卿
比田井南谷
篠田　桃紅
長谷川三郎
吉原　治良
津高　和一

須田　剋太
中村　真
泉　茂
白髪　一雄
岡田　謙三
川端　実
高井　貞二
菅井　汲
田淵　安一
大西　茂
柳　頼雄
横山　操
堂本　印象

井上有一《愚徹》1956年（国立国際美術館蔵）

ピエール・アレシンスキー
ジェラール・シュネイデル
アンス・アルトゥング
ピエール・スーラージュ
ルウィン・アルコプレー
ロバート・マザーウェル
ジョルジュ・マチュー
アンリ・ミショー
ジョアン・ミロ

書と絵画との熱き時代・1945〜1969

1992年1月25日[土]—2月26日[水]

●開館時間：午前10時—午後6時30分（但し入館は6時まで）　●休館日：木曜日

※なお、以下のように会期を、前期・後期に分け、一部展示替を行う。
前期　1992年1月25日[土]—2月12日[水]
後期　1992年2月14日[金]—2月26日[水]

《関連企画》
対談　2月15日[土]　3:30P.M.〜5:30P.M.
針生一郎（美術批評）／北沢憲昭（美術批評）
司会：天野一夫

主催・会場：(財)品川文化振興事業団　O美術館
東京都品川区大崎1-6-2　大崎ニューシティ2号館　TEL.3495-4040　JR山手線大崎駅東口下車徒歩1分

●入館料：一般500(400)円／高・大生300(200)円／小・中生100(50)円
（　）内は20名以上の団体料金および割引入館料